

## どのように神を礼拝するか

出エジプト記 20章 1-11節

### はじめに

私たちの教会は、今月から月ごとのテーマを決めています。1月は「ディボーション」でしたが、2月は「礼拝」となります。毎月第一主日の説教では、月ごとのテーマに沿って説教することになっていますので、今日は「礼拝」についてお話したいと思います。

### 1. 礼拝的存在としての私たち

私たち人間は、主なる神様によって造られました。大地のちりで形造られ、いのちの息を吹き込まれて造られました。その意味で、神様と私たちの関係は、創造主と被造物の関係です。神様は私たち人間を、三位一体の主なる神様の形に造られ、私たちが本来的に交わりに生きる存在として造られました。そして私たちの心の中にご自身の律法を刻まれ、本来的に神様を礼拝する存在として造られました。

ですから、主なる神様と交わり、礼拝して生きることこそ、私たちが造られ生かされている意味と目的に適った最善の生き方だと言えます。そして、そのような生き方こそ、私たちらしく、与えられた命を生き生きと幸せに生きる生き方だと言えます。

しかし私たちの最初の先祖であるアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たち人間は神様との交わりを失い、罪の性質を持ち、神様の怒りと呪いのもとに置かれる存在となってしまったのです。この時から、私たち人間は、罪の贖いなしに、また仲保者なしに、神様と交わることも礼拝することもできなくなってしまったのです。

しかし私たち人間は、本来的に神様との交わり、礼拝を求めて生きる存在です。たとえ主なる神様との交わりを失っても、礼拝を求めているのです。

そのため私たち人間は、主なる神様以外の神を求めて礼拝するようになりました。創造主である主なる神様ではなく、被造物である人間や太陽や月などの自然、木や石、金や銀などで作られた偶像を礼拝するようになったのです。全世界のどの民族にも宗教があるのは、私たち人間が本来的に礼拝を求めている存在だからです。

私たち人間は、本来的に神への礼拝を求める存在です。しかし主なる神様との交わりを失った私たちは、主なる神様以外の被造物を神として礼拝し、偽りの神々への礼拝で心を満たそうとしているのです。

その結果、私たち人間は、主なる神様の怒りを買い、罪の中に引き渡されることになったのです。そして私たち人間には、不義、悪、貪欲、悪意、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧み、陰口、人への中傷、神への憎悪、人への侮り、高ぶり、大言壯語、悪事の企み、親への反抗、不誠実、情け知らず、無慈悲、これらの罪が満ちるようになり、あらゆる悲しみと苦しみ、肉体の死と永遠の地獄の刑罰を招くようになったのです。

私たち人間に罪と悪、あらゆる悲しみと苦しみ、肉体の死と永遠の地獄の刑罰を招くようになった根本的な原因是、私たちが主なる神様との交わりを失い、主なる神様を礼拝しなくなったことにあるのです。

## 2. 神の御心に従って礼拝する

私たち人間は、本来的に主なる神様と交わり、礼拝して生きる存在として造られました。それゆえ、主なる神様を礼拝して生きることこそ、私たちにとって本来的な生き方であり、私たちの人生に平安と幸せをもたらす生き方だと言えます。

では私たちは、どのように主なる神様を礼拝したらよいのでしょうか？どのように礼拝すれば、主なる神様を喜ばせ、主なる神様の栄光が現れるのでしょうか？礼拝の仕方は自由なのでしょうか？私たちが思いつくまま、私たちがやり易いように、やりたいように礼拝すればよいのでしょうか？

そうではありません。主なる神様は、ご自身をどのように礼拝すべきかを、聖書を通して私たちに教えておられます。どのような礼拝を神様が喜び、どのような礼拝が神様の栄光を現すものなのかを、聖書を通して教えておられます。またどのような礼拝を神様が嫌い、どのような礼拝が神様の御名を汚すものなのかを、聖書を通して教えておられます。

礼拝は、主なる神様が望むものを捧げなければなりません。主なる神様が望む礼拝は、聖書の中に書かれています。私たちは自己満足や独りよがりの礼拝ではなく、神様が喜ばれる礼拝を捧げなければなりません。

## 3. どのように神を礼拝するか

では、神様が喜ばれる礼拝とは、どのようなものでしょうか？私たちが礼拝で朗読する「十戒」の前半部分、第一戒から第四戒は、主なる神様をどのように礼拝すべきかを教えています。

### (1) 三位一体の主なる神だけを礼拝する

第一戒は、「あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない」です。主なる神様は、ご自身だけを礼拝することを求めています。日本には八百万の神がいると言われます。そして日本人は、ひとりの神ではなく、多くの神々を同時に信じ、礼拝します。

しかし主なる神様が喜ばれる礼拝は、主なる神様を唯一の神と信じ、主なる神様だけを礼拝することです。

では主なる神様とは、どのような方でしょうか？それは、第一に天地の創造主です。この世界と私たち人間を造られた方です。第二に、主なる神様は救い主です。1節に「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隸の家から導き出したあなたの神、主である」とあるように、主なる神様は、イスラエルの民をエジプトの奴隸状態から救い出した方であり、私たちを罪の奴隸状態から救い出してくださった方です。第三に、主なる神様は、父・子・聖霊の三位一体の神様です。

私たちはなぜ三位一体の主なる神様を礼拝するのでしょうか？それは、主なる神様こそ、私たちを造り、私たちを救い、私たちといつも共にいて導いてくださる方だからです。

#### (2)御霊と御言葉によって礼拝する

第二戒は、「あなたは自分のために偶像を造ってはならない」です。主なる神様は、目に見える形で礼拝されることを喜ばれません。目に見えない主なる神様を、何か目に見える形に表現して礼拝されることを嫌われます。

イエス様は言われました。「神は靈ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません」(ヨハネ 4:24)。主なる神様は、靈です。靈である主なる神様を、目に見える形で表現して礼拝してはならないのです。ではどのように礼拝すべきなのでしょうか。それは、御霊と真理によってです。言い換えれば、聖靈と御言葉によってです。

私たちは、目に見える形ではなく、御言葉を通して礼拝します。御言葉に従って礼拝を整え、御言葉の説教を聴いて礼拝します。主なる神様は、御言葉が真実に語られ、御言葉が真実に聴かれる礼拝に臨在されるのです。

また御霊と真理によって礼拝するとは、聖靈とイエス様によって礼拝するとも言えます。イエス様は言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」(ヨハネ 14:6)。

アダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たち人間は、罪の贖いなしに、また仲保者なしに、神様と交わることも礼拝することもできなくなりました。私たちは、罪の問題を解決しなければ、主なる神様の御前に出ることも礼拝することもできないのです。イエス様は、私たちの罪を償うために十字架に架かってくださいました。私たちはイエス様を主なる神様と信じ、私たちの救い主として信じ受け入れる時、すべての罪が赦され、主なる神様との交わりを回復するのです。

私たちは、イエス様の贖いなしに、主なる神様と交わることも礼拝することもできません。主なる神様が喜ばれる礼拝は、イエス様の贖いを通して捧げられる礼拝です。そして御言葉による礼拝です。

#### (3)口先ではなく心から礼拝する

第三戒は、「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない」です。みだりに口にするというのは、心を込めず、愛と信仰を込めずに口にすることです。つまり口先だけということです。礼拝においては、祈りや賛美の中で主なる神様の名前を呼びます。主なる神様はその時、口先だけではなく、心と愛と信仰を込めて祈り、讃美することを求めて

いるのです。

また礼拝においては、誓約をする時もあります。洗礼式、転入会式、役員の就職式など。私たちはその時、口先だけではなく、誓約する内容をよく理解し、信仰と心からの決意をもって誓約しなければなりません。

主なる神様が喜ばれる礼拝は、表面的・形式的なものではなく、私たちの全身全霊をかけた真実な礼拝です。

#### (4) 主の日に礼拝する

第四戒は、「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ」です。第四戒は、私たちがいつ礼拝すべきかを教えてています。私たちは、自分の好きな時に礼拝するのではありません。一年に一回、一か月に一回、あるいは何も用事がない時に礼拝するのではありません。主なる神様は、一週間に一度、それも安息日に礼拝されることを望んでおられます。神様は、礼拝の時を指定しておられるのです。神様に喜ばれる礼拝とは、安息日に捧げられる礼拝です。

旧約時代の安息日は七日目の土曜日でしたが、新約時代の安息日は週の初めの日の日曜日となりました。週の初めの日の日曜日に、イエス様が死からよみがえり復活されたからです。新約時代の安息日は、主の日と呼ばれます。

主なる神様は、この安息日を聖別する人を祝福されます。私たちは、主なる神様の祝福に与るために、主の日を聖別するのです。

#### おわりに

私たち人間は、本来的に主なる神様を礼拝する存在として造られました。主なる神様を礼拝して生きることこそ、私たちが造られ生かされている意味と目的に適った最善の生き方、また私たちらしく、与えられた命を生き生きと幸せに生きる生き方だと言えます。

しかしアダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たち人間は主なる神様との交わりを失い、罪の性質を持ち、正しく礼拝することができなくなりました。主なる神様ではなく、人間や自然や偶像を神として礼拝して、主なる神様の怒りを買ひ、罪と惡、あらゆる悲しみと苦しみ、肉体の死と永遠の地獄の刑罰を招くようになりました。

主なる神様は、私たちが正しく神様を礼拝し、神様との交わりを回復するために、聖書を与え、救い主イエス様を遣わしてくださいました。イエス様は、私たちのすべての罪を十字架で償ってくださいました。

聖書は私たちに、神様が喜ばれる礼拝、神様の栄光が現される礼拝とは、どのようなものかを教えてています。①主なる神様だけを礼拝すること、②イエス様を主なる神様、また救い主と信じ、御言葉と聖霊によって礼拝すること、③口先ではなく、心と愛と信仰を込めて礼拝すること、④安息日、主の日に礼拝すること、です。

主なる神様は、私たちの創造主であり、救い主です。私たちは的外れな礼拝、自己満足で独りよがりの礼拝ではなく、聖書に規定された神様の喜ばれる礼拝、神様の栄光を現す

礼拝を捧げていきましょう！それこそ私たちにとって祝福された道です。